

みそさざい 兵庫県

みそさざいという小さな鳥を知っていますか。山の谷あい^しにすんでいて、すずめより小さな鳥ですが、よくひびく高い声^なでなきます。

昔むかし、大むかし。たかの仲間^{なかま}たちが集まってみなでお酒^{さけ}を飲^のんで遊^{あそ}んでいました。そこへ、みそさざいが飛^とんできて、

「ぼくも仲間に入れてください」といいました。みんなはみそさざいをばかにして、

「おまえみたいな小さな鳥が、おれたちたかの仲間になかなれないよ」といいました。そして、

「仲間になりたけりや、いのししでもとって来るんだな」といつて笑^{わら}いました。

みそさざいは、すぐに飛んで行って、やぶの中で寝^ねているいのししの耳の中に飛びこみました。いのししはびっくりしてかけました。けれども、みそさざいが耳の中であばれるので苦^{くる}しくてたまりません。とうとう、いのししは、岩に頭をぶつけて死^しんでしまいました。みそさざいは大いばりでもどって行って、たかの仲間になってお酒を飲んで遊びました。

ところで、このとき、くまたかが負^まけん気を出して、

「おれだって、いのししをとってやるぞ」と、飛び出して行きました。すると、いのししが二ひき、連^つれ立って走っていました。くまたかは、二ひきともいっぺんにつかまえようと思つて、右の足と左の足をいっぴきずつにかけました。いのししは、右と左^{わか}に別^{わか}れて逃^にげました。くまたかは、またが裂^さけてしまったということです。

おしまい

村上郁再話

資料『日本の昔話』柳田国男／『柳田国男全集25』筑摩書房